# 生の座右の銘

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
2025

# 生の座右の銘

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
2025

# はじめに

　朝鮮人民の偉大な領袖金日成（キムイルソン）主席の回顧録『**世紀とともに**』が世に出て数十年の歳月が流れた。しかし、希世の偉人の回顧録は、深遠な思想と豊かな内容、珠玉の文章、大きな感化力により世界の革命的人民の間で引き続き大きな反響を呼んでいる。

　金日成主席の回顧録は、革命運動に携わる人々に革命の原理と人生の真理を悟らせ、生と闘争において指針とすべき座右の銘を与える貴重な教科書である。

　主席は回顧録で、人民を信頼し、人民に依拠するときは天下を得て百戦百勝するが、人民をないがしろにし、彼らに見捨てられたときは百戦百敗するという真

理、生と闘争の教訓を後世に残すことになれば幸いである、と述べている。

本社編集部は、金日成主席の回顧録『世紀とともに』から抜粋した名言集『生の座右の銘』を発行する。

# 目　次

# 1. 祖国と革命

「国が滅びれば、山河も人間も決して安らかでありえない。滅んだ国の屋根の下では、国を売り渡した代価としてぜいたく三昧に暮らす売国奴も安らかに眠れないものだ。人間は生きていても喪家の狗にも劣り、山河は境界が残っていても本来の姿を保つのがむずかしいのである」

「歴史には強大国が小国に同情し、弱小国の人民に自由と独立をプレゼントした前例などない」

「人間が一生を生きるあいだには、いろいろな悲しみにぶつかるものだ。しかし、それらの悲しみのなかでも最大の悲しみは亡国の悲しみであり、亡国の民となって祖国を離れる悲しみである」

「祖国のために泣き、笑い、血を流し、全身全霊をささげた人だけが、祖国の真の貴さを知ることができるのである」

「真に祖国を愛し、民族を愛する人は、地球上のどこにいても、先祖の墓があり、自分が生をうけた懐かしい生まれ故郷にもどってくるものであり、たとえ出発点は違っていても、いつかはこのように再会して喜び合うものである」

「党争がはびこり、党派と外部勢力が結託すれば、行き着くところは亡国しかありません」

「革命家にとって監獄は一つの闘争舞台であるといえる。監獄をたんに幽閉場と考えるなら、受け身になってなにもできない。だが、監獄を世界の一部分と考

えれば、その狭い空間でも革命に有益なことができるものである」

「革命は少数の特殊な人間だけがするものではない。真理に目覚め、よい影響をうけていれば、誰でも世界を改造し変革する革命闘争で目を見張るような偉勲を立てることができるものである」

「他人の鋳型に無理にはめこんで革命の性格を規定しようとすれば教条主義に陥る。鋳型が優先するのでなく、具体的な現実が優先しなければならない」

「人生を一つの道楽だと思えば、革命はやれずに富を楽しむことにとどまり、道楽はできなくても人間らしく生きるべきだと思えば、資産家も革命運動に参加するのである」

「革命家の一生は大衆のなかに入るこ

とからはじまり、革命の失敗は人民大衆の力を信じず、人民大衆のなかに入らないことからはじまるといえる」

「もっともらしい革命的言辞とはねあがったスローガンの裏で、極左はつねに大衆を愚弄し、抑圧し欺き、功名と栄達を夢見るものである」

「右翼が公然たる反革命であるなら、『左』翼は隠蔽された反革命であり、右翼がガンであるなら、『左』翼もそれに劣らぬ毒キノコである」

「革命は自分が立てた戦略的目標を達成するために、新しい環境と条件に即応して戦術を不断に更新しなければならない。こういう更新なしには革命は沈滞をまぬがれなくなる」

「愛に国境がなく、科学に国境がない

ように、革命にも国境はない」

「生まれながらの革命家というものはありえず、人間は生活と闘争の過程で闘士に、革命家に成長するのである」

「革命は、思想・意志や規律だけでできるものではありません。思想・意志、道徳・信義とともに、ロマンを宿した情操をもってするのが革命なのです」

「革命家に試練はつねに宿命的についてまわるものといえます」

「革命は銃をもって進めるべきであり、民族の独立や社会的解放をめざすすべての闘争の結末は、おおよそ武装闘争によって決まります」

「郷土愛に燃える人は祖国愛も強く、祖国愛の強い人は革命にたいする熱意も

高いものです」

　「革命とは闘争のみを意味するものではありません。革命には闘争もあり、生活もあります」

## 2. 党と大衆

「革命が歴史の機関車だとすれば、党は革命の機関車だといえる」

「指導思想、指導中核、大衆的基盤——これは党組織結成の必須の要素である」

「人民的品格と人民の利益に合致する人民的思考方式は、決して机の前に座っていておのずとそなわるものでなく、まして空論によって身につくものではない。それは人びとの肉声はもとより、息づかい、目の色、表情、言葉づかい、手ぶり、動作まで自分の目と耳でじかに確かめる、人民との血の通った接触を通じてのみ身につくものである」

「革命家の生命は大衆のなかに入ると

きにはじまり、大衆から離脱するときに終焉を告げるといえる」

　「人民のためにこうむる国家の『損失』は損失とはいえない」

　「人びとの政治的生命を扱う幹部は、大衆と呼吸をともにすることを片時も忘れてはなりません。大衆と呼吸をともにするというのは、人民がシャベルを手にするときは自分もシャベルを手にし、人民が粟飯を食べるときは自分も粟飯を食べ、人民とすべてを分かちあうということです」

## 3. 思想と理論

「学習は、革命家の自己修養にとって欠かせない基礎工程であり、社会の進歩と変革の元手として一日の中断をも許さない必須の精神労働である」

「進歩的な思想というのはほかならぬ、人間愛、人民愛、民族愛、祖国愛です」

「人間の第一の属性が自主性であるように、民族の生存を保障する第一の源も自主性にある」

「自主性というのは、誰かがつくりだして贈ってくれるものでもなく、時間の累積とともにおのずから実現するものでもない。それは闘争によって自らがかちとらなければならない」

「人民の利益を第一としてたたかう人の思想はダイヤモンドのように変わることがありませんが、革命の利益や人民の利益など眼中になく一個人の安泰と享楽のみを追求する人の思想はたやすく変質してしまいます」

「人間がすべてを決定するというのは結局、人間の思想・意識と知的能力がすべてを決定するということです」

「人間愛と人民愛、祖国愛は天から降ってくるのではありません。それは健全な思想と信念によって培われるのです」

「事大主義というのはなにも特別なものではありません。力が弱いとき他国に頼ろうとしたり、他国にすがって活路を開こうとすれば、おのずと事大主義が生まれるものです」

「自分自身と自国人民の力を信じない人の行き着く終着点がほかならぬ事大主義であり、事大主義の導く道は売国と反逆です」

「歴史は、革命の原理を無視して主観主義に偏する人にはりっぱな結実を与えはしないものです」

「人間がもっている思想的な未熟さは学習と革命の実践を通じて克服され、またその過程を通じて思想的に鍛えられ円熟していくものです」

## 4. 人民と忠僕

「人民は自分を同情し理解する人には進んで心の扉を開くものである」

「人民の愛情につつまれて生きる人間は幸せであり、そうでない人間は不幸である」

「人民を心から愛し敬い、人民の利益と生命、財産を心から守る軍隊であってこそ、人民から惜しみなく支持され声援される」

「自分が人民に君臨する特殊な存在と思いあがるようになれば、結局、大衆に見放される哀れな存在になるほかない」

## 5. 人間と生活

「世の中で母の愛情ほどあたたかく、真実で、変わりのない愛情はないであろう。叱っても鞭で打っても痛くないのが母の愛情であり、子どものためなら空の星でもとろうとするのが母の愛情である」

「終生回顧しうる師がある人は、たしかに幸せな人である」

「人間愛、人民愛、祖国愛、これは友情を確かめる試金石である」

「財産が多くても人徳がなければ世間から遠ざけられる」

「真の人情は広壮な屋敷ではなく、庶民の住む粗末な家にあった」

「人間の住む所に生活があるのは当然であり、生活のある所には芸術があって然るべきである」

「人間を万物の霊長というのは、人間が自分自身を調整できる特有の能力をもっているからであり、革命家を偉大だというのも、彼らが無から有をつくりだし、逆境を順境に変えることのできる剛毅かつ創造的で犠牲的な人間であるからである」

「人間はよいことをすればよい友に巡り合い、よい友とは別れても再び会えるものです」

「『三益友』とは、交わって得になる三種類の友人という意味です。すなわち、正直な人、信頼できる人、見聞の広い人が『三益友』で、そういう人とは付き合ってもよいということです」

「良い友人を得るためには、善いことをたくさんしなければなりません」

「人生の第一歩を祖国と人民のために、人類のために踏み出した人は、人生の終末も祖国と人民のために、人類のために結ばなければなりません」

## 6. 軍事と指揮官

「戦いは日常生活の延長であり総括ともいえる。軍人の戦闘成果は、戦場ではなく、平時の生活ですでに決まるといっても過言ではない」

「遊撃戦は、自己の戦力を保存しながらも敵に大きな政治的・軍事的打撃を加えることができ、小兵力で量的にも技術的にも優勢な敵を掃滅しうる武装闘争方法である」

「国力も銃から生まれ、民族的自負も銃から生まれます。軍隊が強ければこそ民族が興隆し、国も繁栄するのです」

「戦争は力の対決にとどまらず、道徳と倫理の対決でもある。戦争過程で道徳の影響力を無視するか、道徳そのものを

無用の装いとみなすなら、そのような軍隊は一つの巨大なごみの山のようなものである」

　「戦争や戦闘の位置づけは軍事的意義のみではなく、その政治的意義によっても決まるものである」

　「戦いはつまるところ、知恵と知恵の対決であると同時に、信念と信念の対決、意志と意志の対決、勇気と勇気の対決でもある」

　「指揮官の肝がすわっていれば兵士たちも肝がすわり、指揮官が確固たる信念をもっていれば兵士たちの信念と意志もゆるがないものです」

　「戦闘の過程で思わぬ状況が生じ障害が立ちふさがるほど、指揮官は鉄の意志と胆力をもち、冷徹な思考力を働かして

新たな状況に対処し、臨機応変の方法で沈着に逆境を克服していかなければならない」

## 7. 信念と信義

「思想や信念が変われば、義理や人情も同時に変わるものである」

「革命家の前途に困難がないとすれば、それはもはや革命とはいえないであろう」

「鋼鉄も酸化すれば変化をきたすものである。まして、人間は鋼鉄でもなく、弱くて変わりやすい存在なのである。だが、人間は鋼鉄よりはるかに強いともいえる」

「上司の顔色をうかがって、白を黒、黒を白と言い、時勢に応じてこうも言ったりああも言ったりして、上部におもねるのは忠臣ではなく奸臣である。奸臣の舌先に真実は宿りえない」

「革命は信念があっておこなうものであり、その信念は政治的理念への信頼である前に、自国人民にたいする信頼と誇りなのである」

「信念と意志は革命家がそなえるべき基礎的資質である」

「信念と意志は不変のものではない。環境と条件によっていっそう強くもなれば弱くもなり、変質をきたすこともあるのが信念と意志である。革命家の信念と意志に変質が生じれば、その革命ははかり知れない代償を払わざるをえなくなる」

「強固な土台に支えられた信念とはどういうものであろうか。それは自分の貴ぶ理念にたいする絶対的な信頼であり、その理念のためであれば餓死、凍死、殴死の覚悟までしている、そういう信念である」

「信念と意志の強い人間ほど、政治的生命の維持では長寿者になる。早々と信念をすてた人間の政治的生命は、非命に夭折してしまう」

「歴史的経験は、革命が上昇一路をたどり情勢が有利なときには、隊伍内に動揺分子や変節漢は出ないが、内外の情勢が複雑に変化し、革命の途上に難関が立ちはだかるときには、隊伍内に思想的混乱と動揺が生じ、投降分子、落伍分子が現れてはかり知れない弊害を及ぼすことを示している」

「自国人民の力を信じようとしない人間は、困難な環境にぶつかると例外なく敗北主義に陥り、敗北主義に陥ればたちどころに革命勝利の信念を失い、闘争を放棄するか、中途半端に終えてしまうのである」

「目は現実を見ますが、信念は未来を

見ます。
　信念が崩れれば精神が死に、精神が死ねば人間そのものが無用の長物になります」

　「革命的信念と意志と楽観は革命家の三大特質、革命家の思想的・精神的品格をなす三大要素といえます」

　「革命家になる前に人間になれというのはすなわち、良心をもった存在、道徳・信義に忠実な存在になれということです」

　「良心をもつ人間であってこそ革命家になり、良心に錆がつくと信念にも錆がつき、良心にひびが入ると信念にもひびが入り、闘志が麻痺します」

　「100日飢えても生きていけるという信念をもった人、ただ1日の誇らしい生のために1000日の苦労もいとわない人、絶海の

孤島に残り、名も知れぬ草むらの中に一点の塵となって消えることがあっても、組織が自分を探し、自分の名を記憶してくれるはずだと信じる人、自分を育ててくれた指導者と同志への信義を守るためには、自爆も辞せず、絞首台にもためらうことなく上る意志をもつ人であってこそ、つねに勝利者となりえるのです」

「領袖への忠実性と道徳・信義、これは後継者がそなえるべき第一の表徴です」

「生きている人は逝った人を忘れてはならない。生きている人が故人を忘れないでいてこそ、その友情は強固で真実で、永遠なものになりうる」

## 8. 信頼と同志愛

「不信によって得られるものはなくても、信頼によっては多くのものを得ることができます」

「人情は時の流れよりも強い力をもっている。時の流れの前ではすべてが色あせ、衰えてしまうが、人情だけは葬り去ることができない」

「金銭や利潤追求の見地からではなく、理念の共通性によって思想的、道義的に結ばれた革命家の集団において、信頼は統一団結と発展を保障する第一の生命といえる」

「革命は同志を得ることからはじまる。
資本家の元手は金であるが、革命家の元手は人間である。資本家が金を元手に

して財貨の塔を築いていくとすれば、革命家は同志を元手にして社会を変革し改造していくのである」

「戦友の息子は自分の息子で、自分の息子は戦友の息子であるというのが、共産主義的な人間関係なのである」

「生きている人が故人を忘れなければ、そのことだけでもその友情は生きた友情、生命をもった友情となるのである」

「故人にたいする生者の友情は、先立った人たちの子女にたいする生者の愛情と配慮を通じてもつづくものだといえる」

「強固な同僚関係は実戦のなかでのみ発展し、幾多の試練を克服する過程でのみその真価を測ることができるのである」

「真実の同志愛は、真の意味での革命を体験せずしては味わえず、弾雨降りそそぐ戦場で生死をともにせずにははぐくむことのできない愛情である」

「法の力だけで万事を取り仕切ることはできない。法の不可とするところを代わって果たすのがほかならぬ信義と道徳なのである」

「地位というものは固定不変ではない。それは下がることもあれば上がることもあるものなのだから、真の同志的関係を保つためには、地位ではなく人間を見るべきである」

「革命が困難な局面を経るときこそ、人への幻想は徹底的に排撃すべきです。人を信頼し愛するのはよいことですが、幻想をもって接するのはよくありません」

「親子間の愛、夫婦間の愛、恋人同士の愛、師弟間の愛、同志間の愛をはじめ人間生活に存在する愛において大切なのは、献身性であると思います。

自分は飢え、寒さにふるえ、病気にかかっても愛する人にはそうさせまいと、必要であれば火中に身を投げ、刑具の前に進み出、氷の穴にも飛び込む、自己犠牲的な献身性のみが、もっとも美しく気高い真実の愛を創造することができるのです」

「人間を貴ぶ人が民族を愛し、民族愛の強い人が祖国を愛するというのは一つの法則であり、誰も否定できない真理です」

「戦友愛とは生命力の強い愛です。戦友愛が生命力の強い愛となるのは、それが硝煙のなかで磨かれた愛であり、同志に代わって炎のなかにも飛び込み、死ぬこともできる愛であるからです」

## 9. 次代観

「たとえ同じ血筋を引いた子孫であっても、烈士の偉業をおのずと継承するものではない。烈士の闘争業績をよく知り、それを心から貴ぶ子孫であってこそ、父や祖父の世代が切り開いた革命偉業をしっかりと継承していけるのである」

「歴史は墨で塗りつぶせるものでもなければ、火で焼き捨てたり、剣で切り捨てたりできるものでもない」

「涙は、自分を愛するか愛することのできる人たちへの子どもの精一杯の訴えである」

「子どもは階級の花であり、民族の花、人類の花である」

「子どもへの愛情は人間の愛情のうちでももっとも献身的かつ積極的な愛情であり、人類にささげられる頌歌のうちでももっとも純潔で美しい頌歌である」

「革命家たらんとするなら、親の影響も重要ですが、自らの努力が必要です。夢にも先祖の恩恵をこうむろうなどと考えてはなりません」

# 生の座右の銘

編　集：崔英浩
発　行：朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
発行日：2025年4月

№.250880296133

E-mail: flph@star-co.net.kp
http://www.korean-books.com.kp

ISBN 978-9946-0-2504-9
9 789946 025049